

元気が一番!

滋賀県議会議員 奥村よしまさ

県政レポート

滋賀の元気の素を創っていく



2月の定例議会が3月24日に閉会し、会期中に平成22年度の一般会計予算案が可決されましたが、県の財政は一層苦しく、景気低迷による税収の大幅な減少が財源不足を更に深刻化していることから、滋賀の企業を元気にする様々な施策が早急に必要だと思っています。

一方、現在の国政には不安を感じずにはいられません。特に外国人地方参政権や選択制夫婦別姓については、きちんとした説明もなく曖昧なまま法案の可決に向けた動きがあり、日本の伝統や原則といったものが軽んじられているように見受けられます。その他の施策においても何が本当に国民にとって良いのかということが抜け落ちた聞こえのいいものが目につき、日本の将来が心配になります。また、このような状況において、かつて国政を牽引してきた自民党がしっかりと追求できていないことにも不甲斐なさを感じます。

県議会で自民党は昨年9月以降会派を分かち活動してきましたが、この度再び統合し、一致団結して県民の皆様のために力を尽くそうということになりました。「滋賀の元気の素は私たちが創っていく」そんな決意で臨んでまいりますので、今後ともご支援よろしくお願いたします。

2月定例議会にて質問を行いました【2/25(木)】

NHK大河ドラマと県観光行政について

 滋賀県は新年度から、県内観光の盛り上げに向けた施策を幅広く展開するとし、来年のNHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」にちなんだイベントや「歴女」によるブログ発信など、推進協議会ではあの手この手を駆使し、近江・滋賀をアピールするとしていますが、その事業の具体について伺います。

<知事の回答>

1点目は、NHKに対する情報提供やロケハン・ロケを支援する「ドラマ制作支援」。2点目は、広報宣伝ツールの作成、組織的、効果的な情報発信、イベントなどを行う「広報宣伝」。3点目は、ゆかりの地などを解説したガイドブックなどを作成する「受入態勢の整備」。4点目は、旅行業者説明会やプレスツアーなどを行い、本県への旅行商品開発を促す「旅行商品造成支援」。5点目は、ドラマ放映後も観光誘客が図れるよう「滋賀ならではの自然、歴史・文化の情報発信を行う」ことです。

道徳教育について

 日本を誇りに思い、外国にも理解を示す豊かな心を養う教育が今後益々必要になってきています。形骸化されているようにも見える今日の道徳の時間も、本来の規範意識を育む徳育の授業として充実させるべきだと考えますが、教育長の所見を伺います。

<教育長の回答>

社会構造の変化の中、改めて、家庭や社会全体で子どもたちの規範意識を育むことが求められています。その中で、道徳教育の果たす役割は大変大きく、学校においても、地域と協力し、全ての教育活動を通じて人間としての尊厳を自覚し、自他を認め尊重する態度を育成することが重要であると考えています。

●その他、定例議会では南草津駅への新快速停車要望、企業庁の耐震化対策と上水道事業の統合について、予算特別委員会では、男女共同参画推進費、電気自動車普及促進事業、近江牛のブランド化対策、都市公園事業、外国人児童生徒等に対する健全育成事業、生徒指導・進路指導総合推進事業についても質問いたしました。

予算特別委員会にて質問を行いました【3/9(火)】

地場産業総合振興対策費について

 古くより滋賀の産業を発展させてきた地場産業に繊維産業がありますが、「麻」「絹」「綿」など3つが共存して発展してきたのは、滋賀だけだと言われています。こうした滋賀ならではの地場産業振興状況について伺います。

<知事の回答>

本県には3つの繊維産業に彦根の「バルブ」「仏壇」「ファンデーション」、甲賀・日野製薬「信楽陶器」「高島扇骨」を合わせた9つの産地があり、地域経済の基盤となっていますが、近年の消費者ニーズの変化や輸入製品の増加など、地場産業を取り巻く状況は厳しいものがあります。後継者の育成、消費者ニーズにうまく適応すべく新商品の開発を行い、さらには国内のみならず国外までも含めた販路の開拓など、意欲ある取り組みについて、関係団体とも協力しながら、今後県としても地場産業の支援をしていきたいと思えます。

「子育て三方よしコミュニティ」推進事業について

 「子育て三方よし」に関する情報を発信し「社会で子育てを支える」機運の醸成を図るということですが、「まずは家庭」の理念が必要ではとの考えは生かされるのかを伺います。

<知事の回答>

子育ての第一義的な責任は親にあります。まずは家庭という理念のもとに、この事業を推進していきます。しかし家庭の力、家族の力を発揮するためにも、多くの子育ての課題がある現状においては、社会全体で子どもの育ちに関わり、支えていくことが大切です。親の孤立を防ぐ環境を整えることが、子どもたちの命を守り、将来社会の担い手が健やかに育ち、活力ある社会を築いていくことにつながっていくと考えています。



滋賀県議会議員
総務・政策常任委員会 副委員長
経済雇用対策特別委員会 委員
議会運営委員会 委員

奥村芳正

事務所 〒525-0041 草津市青地町962-15 サンハイム東草津1F TEL:077-567-1500 FAX:077-567-1588

自宅 〒525-0042 滋賀県草津市山寺町477 TEL・FAX:077-562-4841 Web <http://www.genki-shiga.jp>活動日記
毎日更新中!携帯でも発信
しています!

平成22年度一般会計予算案が可決されました。

県財政はこれまでに経験したことがない危機的状況に。

税収は前年度比275億円の大減

平成22年度一般会計当初予算は、前年度比で94億円(1.9%)の増加となっていますが、これは国の経済危機対策に対応した基金の関連事業を計上したことが要因で、それ以外の予算においては3年連続の減少となっています。

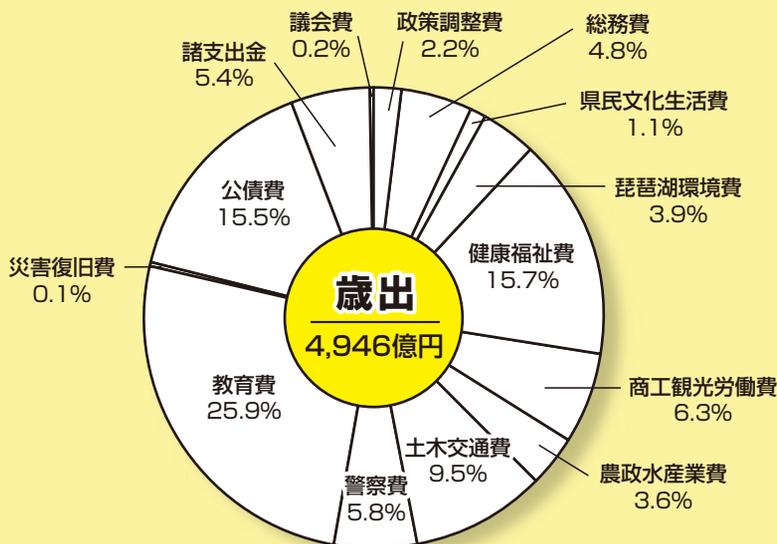
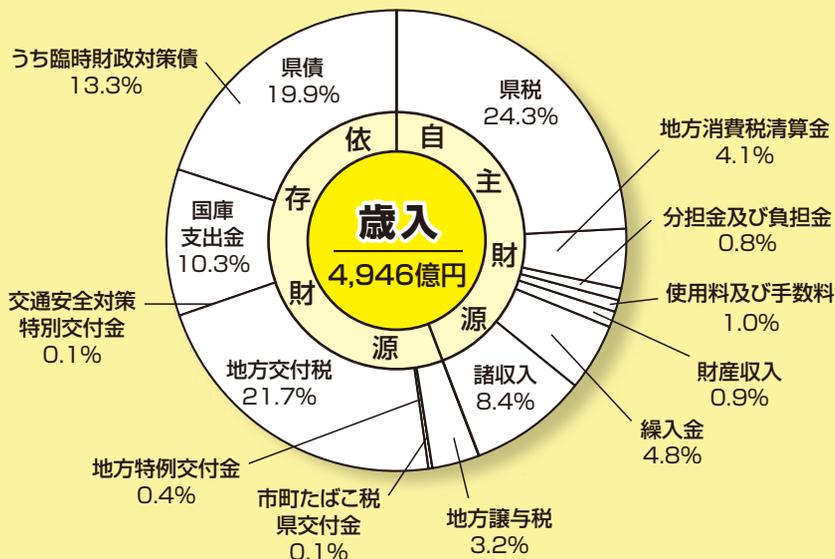
景気の低迷により税収も前年度比で275億円(18.6%)の大幅な減少となり、滋賀県の財政はこれまでに経験したことがない危機に瀕しています。これを受けて県債の発行も極力抑制に努めているとはいえ、県債残高は年々増加しており、財源不足に対応するための基金も残高がほぼ底をつくという状況です。今後より一層の収支改善に向けた事業の見直しが必要ですが、**県民の皆様の血税を有意義に活用するために、議会の一員としてしっかりと議論していきたい**と思います。

予算規模

※企業会計は収益的支出および資本的支出の合計を示しています。

一般会計	4,946億円	(対前年度当初比 94億円増 1.9%)
特別会計	1,841億円	(対前年度当初比139億円減 ▲7.0%)
企業会計	328億円	(対前年度当初比 3億円減 ▲0.8%)

平成22年度一般会計当初予算



2011年大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」の舞台、滋賀の魅力発信を県としても後押しします。

滋賀県が舞台にもなっている来年放送予定のNHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」は記念すべき第50作目となります。江は、近江国小谷城主・浅井長政と、織田信長の妹・お市の方の三女として生まれ、歴史上名高い「浅井三姉妹」の末妹として育ちます。江の生後間もなく、父・長政は信長に滅ぼされ、のちに母・市は柴田勝家に嫁ぎますが、勝家は秀吉に敗れ、市も自ら命を絶ちます。その後、三姉妹は秀吉に引き取られ、江は佐治一成と結婚しますが、夫が秀吉の敵対陣営についたため、無理矢理に離縁させられます。次の夫・羽柴秀勝(秀吉の甥)は、結婚後間もなく出陣し、朝鮮で病死します。三度目の結婚は、秀吉の最大のライバル徳川家康の息子・秀忠、のちの徳川二代将軍です。秀忠との娘・和子は後水尾天皇に嫁ぎ、長男・家光は三代将軍となります。

こうしたあらすじを見るだけでも、まさに戦国の世を生き抜いた江の波瀾万丈の人生が伺え、今からドラマの放映が楽しみです。また、歴代の大河ドラマの舞台となった地域は、一躍脚光を浴びる事となり、その経済効果は200億とも350億とも言われています。そこで県では、大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」滋賀県推進協議会を立ち上げ、撮影協力や広報など全面的にバックアップし、滋賀県の魅力を全国にアピールしていくとしています。現在の滋賀県の財政ではそこに多くの予算を充てることはできません。小さな支出で最大の効果を上げられるよう議会でもしっかりと議論し取り組んでいきたいと思っています。

「江」ゆかりの地



系譜図

